

アジア共同学位開発プロジェクト

調査報告書

提出日：平成23年11月1日

報告者名：有本昌弘

○訪問先
韓国・高麗大学校、ソウル国立大学校
○訪問期間
平成23年10月26日（水） - 平成23年10月29日（土）
○訪問者
有本昌弘 教育学研究科教授、清水禎文 教育学研究科助教授、加藤道代 教育学研究科教授、 朴賢淑 教育学研究科助教授、谷口和也 教育学研究科准教授、
○訪問の目的・経緯等
高麗大学校、ソウル国立大学校と提携を結ぶべく、大学を訪問する。 合わせて、12月の東北大学シンポジウム参加に派遣を依頼する。と同時に共同学位について 擦り合わせを行うべく、ソウルナショナル大学とつないでいく意味で国際シンポジウムに参加 する。
○先方対応者
高麗大学校：Yongjin HAHN 師範大学教授、Yonsuk LEE 研究科長、 Hyunsook PARK 副研究科長 ソウル国立大学校：Sanghak JEON 教授
○成果
高麗大学校 ・12月のシンポジウムと1月から3月までに客員教員を2名送る旨の依頼を行った。 ・12月に交流協定を交わすことに合意した。 ・早稲田大学から20名程度の学生が既に訪問しているとのことで、本研究科も、学部段階から、 アピールしておく必要があると思われた。
ソウル国立大学校 ・12月のシンポジウムと1月から3月までに客員教員を2名送る旨の依頼を行った。 ・サマープログラムを来年度9月に行うことが取っ掛かりとして考えられる旨合意した。 ・The 12th SNU ERI International Conference on Education Research, International Education Cooperation for Sustainable Development in the Context of Globalization : A Critical Appraisal に参加し、

今後の展望を得ることができた。Sustainability という概念自体が大会テーマであり、米国や欧州からの参加もあり、よく組織された会議であった。全体的な印象として、示唆に満ちたものであり、学ぶ点も大きかったが、今日的現代的な理念が先行しがちで、実践は実践で進んでいるのに追いついていない面はあるように思われた。国際シンポジウムについては、以下のサイトに詳しい。

http://eri.snu.ac.kr/icer2011/01_Welcoming_message.php

- ・国際シンポジウム参加中に、キャンパスに張り巡らされた無線オンラインから、Seoul National University Faculty Handbook 2010 (英文 全 128 頁) の存在を知ることができた。2025 年までのビジョンや組織運営、研究と教育、昇進や定年、給与や研究資金、福祉や学内施設、子どもが通う小中学校、交通やモバイルサービスといった、生活する上で便利な情報にまで及ぶ、ありとあらゆる面にわたって事細かなガイドが、英文でかかっている。こういうガイドは、日本国内での大学においても必携であろう。

- ・ヨーロッパの高等教育との関連で、豪州と韓国との間でお互いパートナーとなっている European Union – ICI-ECP という 2010 年の重要な政策文書の存在を見つけることができた。Call for proposals No EACEA/14/10 Co-operation in higher education and training between The European Union and Australia and The European Union and the Republic of Korea Applications must be submitted both to the European authority, the EACEA (using the EU application form) and to the respective Partner Country's authority (using the Partner Country's application form)

- ・シンポジウムに参加して、ストックホルム大学関係者が、大学院案内を参加者に配布していた。中を見ると、北京師範大学の新しいプログラムであった。アジアは、より広い東アジア共通の課題を見つけるためにも、「小異を残して大同につく」という観点から、膨張する中国と適度な距離を保ちつつ、一度アジア外との関係を築いておくか、アジア外との関連で、東北大学を相対化することが求められると思われた。